

第 62 号
 発 行
 釧路湖陵同窓会
 くまざさ編集委員会
 発 行 日
 平成25年 3 月 1 日
 印 刷 所
 藤田印刷(株)

親子三代 釧中・湖陵百年紀
 元「サカエヤ」鶴島さん

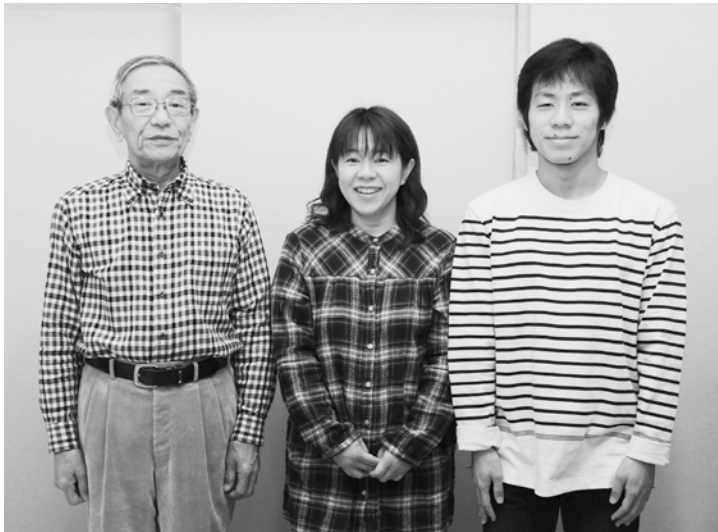
◎同級生との懇親サークルを
 2500回継続

惜しまれながら平成14年に閉店した南大通の「サカエヤ菓子店」といえば、

受け継がれるアスリートの系譜!?

あったけど、店を継ぐつもりは全くなかった」という鶴島さんは、エンジニアになりたくて工学大学への進学を希望していましたが、家庭の事情でやむなく断念、店を継ぐこととなります。

和洋生菓子をはじめ「原野のひと声」や「地酒ケーキ 福司」など、釧路を代表する数多くの銘菓で市民に親しまれた老舗。しかもファンの多かったこれらの銘菓をレシビごと他店に引き継ぎ、従業員の再就職先まで決めた上での廃業とあって、当時「さすがはサカエヤさん！」と多くの賞賛を浴びたものでした。
 そんな「サカエヤ」を、2代目店主として繁盛させながら、体調の不良や後継者の不在でやむなく豊んだ鶴島貞夫さん(湖陵10期)は、1958(昭和33)年の卒業。姉の赤川陽子さん(湖陵9期、1957(昭和32)年卒)とともに、自宅でもあった店舗から「歩いて10分」という富士見町の湖陵高校へ通いました。「確かに跡取り息子では



貞夫さん、和子さん、朋輝君(左から)

菓子職人となった鶴島さんは昭和42年、27歳で結婚、やがてお二人のお嬢さんが誕生します。長女の川尻和子さん(湖陵39期、1987(昭和62)年卒)と、次女の長谷川道子さん(湖陵42期、1990(平成2)年卒)です。
 お二人ともに、道内でも強豪として知られたハンドボール部に所属し、幾度も全道大会やインターハイに出場するほどの選手として、母校・湖陵高校の名を全国に知らしめました。貞夫さんも在学中は校内マラソン大会で好成績をおさめていたといい、そんなアスリートの遺伝子を受け継いだのか、和子さんの長男・朋輝(ともき)君(湖陵67期、現1年生)は、幼稚園の頃から始めたという水泳の選手として、中学時代から全道大会に出場、昨年も高体連の全道大会へ出場するほどの有力選手として知られる存在になっています。そんな朋輝君の願いは、湖陵高校に部活動としての「水泳部」を発足させること。「チームでなければ参加できない種目もあるので、水泳のやりたい新入生が入学してくれることを心から願っています」と、まだ見ぬ後輩の出現に大きな期待を寄せているようです。
 現在、悠々自適の毎日を送る鶴島さんは、卒業時の男子クラスメイト13人と共に結成した「ぢろう会」の幹事長として、隔月で開いている会合を楽しんでいます。卒業してもう55年。みんな年寄りになり、集まりも2500回を越えたので、そろそろ解散の潮時でしょうか」と、寂しさを隠し切れない心情を吐露してくださいました。

西村 貞広(湖陵30期)

目次	創立100周年・定時制90周年		同窓会総会	5頁
	記念式典	2頁	教職員湖陵会・摩周湖陵会	6頁
	記念祝賀会	3頁	合同幹事会・刊行案内	7頁
	記念植樹	4頁	湖陵タイムス・編集後記	8頁

百一步目力強く

湖陵創立百周年 定時制九十周年

記念式典

北海道釧路湖陵高等学校創立100周年・定時制90周年記念式典が、2012年

9月29日午後1時から釧路市民文化会館で、生徒や教職員、同窓生ら約1500人が参加して行われました。

保東友香さん（2年生）の司会で始まり、田川芳紀校長は「社会を照らし、道東をリードする人材の育成に今後も努力したい」と決意を語りました。このあと、釧路湖陵同窓会（全日制）の栗林延次会長（湖陵17期）、実行委員会の葎本正美委員



田川校長



栗林同窓会長



1500人が参加した記念式典

長（湖陵24期）、全日制PTAの伊藤真司会長（湖陵32期）があいさつしました。続いて、歴代の校長、PTA会長、後援会長、同窓会長、学校医、薬剤師、旧職員永年勤続者に感謝状が手渡され、シンボルマーク・キャッチフレーズ受賞者を表彰しま



懐かしい応援団が登場

した。来賓の北海道教育委員会の若狭洋一委員長、蝦名大也釧路市長（湖陵29期）が祝辞を述べたあと、全日制生徒会の大森麻子会長は「新しい歴史を築き101歩目を踏み出していきたい」、定時制生徒会の原峰彩樺会長は「勉強と仕事の両立は大変だが、自分なりに両立して乗り越えていきたい」と誓いました。
アトラクションは、器楽部の演奏、放送局VOKは全日制の今をビデオで紹介、この日限りの応援団は懐かしい応援を披露しました。続いて、定時制の歩みがビデオで紹介され、最後に合唱部が全日制校歌などを披露しました。



校歌などを披露した合唱部



息のあった演奏を繰り広げた器楽部



1200人が集まり盛大に行われた祝賀会



蝦名釧路市長



釧中の先輩たち



葭本実行委員長

記念祝賀会は、同日午後6時から、会場を釧路市観光国際交流センターに移し、約1200人が参加して開催されました。

司会は水本香里さん（湖陵37期）。全日制同窓会の栗林延次会長が「学校のため、そして釧路のためにこの絆をいっそう深いものしたい」とあいさつ、続いて蝦名大也釧路市長、田川芳紀校長、伊藤真司PTA会長が感謝の言葉を述べ、葭本正美実行委員長の発声で懇親会が始まりました。

まず、各地湖陵会の紹介では、関西湖陵会の小川清至副会長（湖

記念祝賀会

陵17期）、東京湖陵会の正札喜久雄会長（21期）、札幌湖陵会の伊藤拓摩会長（湖陵21期）、十勝地区釧中湖陵同窓会の佐藤文俊会長（湖陵17期）が活動の報告と祝辞を述べました。アトラクションでは、歌手の酒井理恵さん（湖陵36期）と及川恒平さん（湖陵19期）がメンバーとなった「六文銭'09」がステージを盛り上げました。

このあと、最年長の石原行雄さん（釧中23期）、最年少の高杉麻衣さん（湖陵64期）、最遠方の佐川彰浩さん（湖陵32期）ⅡタスマニアⅡ、夫婦参加の小川俊次（湖陵10



「六文銭'09」のステージ



一緒に記念撮影

期)、悦子(湖陵16期)さん夫妻、砂山栄二(湖陵11期)、由紀子(同)さん夫妻に記念品が葎本実行委員長から贈られ、最後は定時制同窓会の河瀬和弘会長の万歳三唱で閉会しました。



酒井さん熱唱

心のを和ませ、そして私たちを見守っ

年この桜が大きく成長し、100

記念植樹



栗林同窓会長(後列左)、田川校長(後列右)、大森生徒会長(前列左)、葎本委員長(前列右)

てくれるものと思っています」とあ



合唱部が校歌を披露

星 匠(湖陵30期)



正面玄関前に記念植樹



美しいハーモニーを奏でる合唱部



器楽部による迫力ある演奏



会場を盛り上げるチアリーダー

同窓会総会 盛大に

釧中・釧路湖陵同窓会総会が、昨年8月13日に釧路キャッスルホテルで開催されました。総会の当番期は、30、40、50期。会場には約500人の同窓生が集まり、旧交を温めました。

湖陵高校合唱部のリードで校歌を斉唱したあと、黙とうが捧げられました。栗林延次同窓会長（湖陵17期）があいさつしたあと、田川芳紀校長、蝦名大也釧路市長（湖陵29期）が祝辞を述べました。このあと議

事に入り、平成23年度決算などが承認、役員も現体制を継続する事が確認されました。また、9月29日に釧路湖陵創立100周年・定時制90周年記念式典と祝賀会が行われることから、準備状況などが報告されました。

懇親会では、湖陵高校のチアリーダー、合唱部、器楽部がそれぞれステージで日頃の練習の成果を披露、会場は和気あいあいの雰囲気の中、高校時代の思い出話に花が咲いていました。

今年31、41、51期が幹事期。創立100周年も終えて、新たな同窓会総会に期待したいと思います。

星 匠（湖陵30期）



約500人が参加した同窓会総会



高校時代に帰り校歌斉唱

そば文化学ぶ

釧路教職員湖陵会

釧路教職員湖陵会(奥田泰朗会長・湖陵25期)の研修会と懇親会が、昨年11月17日に釧路市内のアクア・ベールで開催されました。

半世紀を越えての活動の中で、異業種の湖陵同窓生を講師に迎えるということで、本年度は釧路湖陵高校の現PTA会長、竹老園東家総本店の伊藤真司氏(湖陵32期・昭和55年卒)に白羽の矢が当たりました。

演題は、「日本のそば文化」東



釧路の食文化「そば」を語る伊藤氏

家暖簾の系図」。伊藤氏は17ページに及ぶ資料を準備、「そばの起源」から話を切り出し、東家の系図に基づいて語りました。

その一部を抜粋すると、●「そばの起源」―「そば」という五穀(米・麦・粟・黍・稗)にも含まれない雑穀を材料にし、粹な食べ物に洗練されたのが江戸人 ●江戸そばの三大暖簾―「砂場」「更科」「藪」が東京の三大暖簾 ●東家の暖簾の系譜―北海道のそば屋の始まりは、初代の伊藤文平で、小樽で明治7年に開業。「東家」の本拠地が釧路となったのは明治45年。昭和7年、「老人が健やかに憩う処」に二代目竹次郎の「竹」の一字を加えて「竹老園」と命名。三代目は竹次郎の養子の徳治。四代目の伊藤正司は東家総本店代表取締役として現在に至っています。

その他に、●「もりそば」と「ざるそば」の違い ●かしの由来 ●そば湯がつく訳 ●そばの南蛮とは ●そば屋と通言葉 など、釧路の食文化ともいえる「そば」の道について熱心に語り、意義のある講演会の幕を閉じました。 川端 紀一(湖陵11期)



弟子屈町で行われた摩周湖陵会

交流を深める

摩周湖陵会

弟子屈町と標茶町在住の同窓生

で組織されている摩周湖陵会(岩崎寛会長・釧中28期、会員44人)の総会が、昨年11月22日に弟子屈町内のそば処出雲で行われました。同会は、1年に一度、弟子屈町もしくは標茶町で開催されていて、今回は13人が出席しました。

懇親会では、高校時代の思い出を語り合い、懇親を深めました。 星 匠(湖陵30期)

同窓会館に校舎模型

緑ヶ岡に建つ現在の釧路湖陵高校の校舎横に、同窓会館があります。富士見にあった前校舎の資料などが保存されていますが、目を引くのが校舎の模型。釧中時代の校舎と火災にあって建て直した富士見校舎が、細部にわたって再現されています。

この模型は、緑ヶ岡へ引っ越すことが決まってから旧校舎を残そうと製作され、当時の模型部、42期から46期まで女性を含む25人の生徒によって取り组まれました。1991(平成3)年9月完成です。

写真は多数残っていますが、模型を見ると、「ここで行灯をつけた」「図書館はこんなには遠かった」など、高校時代の記憶がよみがえってきます。同窓会館は、高校事務室に申し出ると開けてもらえますが、事前に連絡をした方がよいでしょう。

星 匠(湖陵30期)

役員は次の通りです。
会長 岩崎寛、副会長 寺島寿(釧中32期)、幹事 根津文博(湖陵15期) 川湯地区 森内重信(湖陵8期) 鈴木徳一(湖陵12期) 弟子屈地区 土肥雅則(湖陵21期) 和田山明彦(湖陵25期) 標茶地区 監査 高橋初代(湖陵7期) 谷岡友子(同)、事務局長 木村直樹(湖陵41期)、事務局次長 黒萩徳樹(湖陵42期)



富士見校舎の模型

記念事業成功を報告

合同幹事会開催

北海道釧路湖陵高校創立100周年・定時制90周年記念事業の経過報告を行うため、合同幹事会が昨年11月30日に釧路全日空ホテルで開かれました。

同窓会からは、同じく9月29日に行われた記念式典及び記念祝賀会が、多数の同窓生の参加により大成功で終了したことや同窓生からの寄付や協賛金が当初の計画以上に取り組まれたことが報告さ

れ、栗林延次会長(湖陵17期)からは挨拶の中で、改めて各期代表幹事に対し、協力への感謝の言葉が述べられました。

このあと、記念事業の一環として記念誌が発刊されることや学校への記念品贈呈の取り組みなどを確認、参加者全員で各事業の成功を祝いました。

佐藤 文昭(湖陵22期)



記念式典、記念祝賀会などの事業が報告された合同幹事会

刊行案内

昨年4月、大道寺将司(だいどうじ・まさし) 湖陵19期)死刑囚の全俳句集(大田出版232頁、2100円(税込))が発行されました。

発行を勧め、本の序文を書いた作家・辺見庸氏と大道寺死刑囚との、収監中の面会などを放映したNHK・Eテレ特集「失われた言葉をさがして 辺見庸 ある死刑囚



全句集

との対話」(2012年4月15日放送)によれば、1974年に大道寺死刑囚らが東京・丸の内三菱重工ビルを爆破し、死者8名、負傷者300名以上を出しました。同番組では、大道寺死刑囚の故郷、釧路市内を映し、中学校で同級生の中に差別を受けたアイヌ民族のことや、大学浪人中の大阪市を映し、差別を受けた在日朝鮮人のことを捉え、テロに走った背景を探りました。

大道寺将司

逮捕後、湖陵卒の団塊世代を捜査のため、警視庁の刑事が我が家を訪れ驚いた記憶があります。今、大道寺死刑囚は小菅刑務所の独房でガンと闘病中ながら、無辜の市民を多数死傷させた自省の日々を俳句という「刃物」で自分の精神と肉体を切り刻んでいます。「棺一基 四顧茫茫と霞みけり」など虫・風雨・花に託した思いは実に壮絶です。 田巻 恒利(湖陵18期)

ブロンズ像寄贈・米坂ヒデノリ氏



ブロンズを囲んで米坂さん(左)と田川校長(右)

彫刻家、米坂ヒデノリさんは2月15日、ブロンズ像「開拓者」を釧路湖陵高校に寄贈しました。米坂さんは、1949(昭和24)年に併置中学校を卒業し、学区変更で釧路江南高校を卒業、釧路湖陵高校では教員もつとめていました。

今回は傘寿を迎える記念として、61年に製作した高さ33センチのブロンズ像を寄贈しました。

贈呈式で田川芳紀校長は「1学年のテーマ『輝きの開拓者たち』を象徴しています」と感謝していました。このブロンズ像は、湖陵ギャラリーに展示される予定です。

星 匠(湖陵30期)

生徒たちの100周年 最新の湖陵タイムスから

釧路湖陵高等学校新聞局が発行している「湖陵タイムス」。昨年12月に発行された150号には、昨年9月29日に行われた創立100周年・定時制90周年記念式典を特集しましたので、成功させようと奮闘する生徒たちの姿を紹介しましょう。



観客をわかせた応援団

放送局VOK・保東友香さん(2年)は、司会が決まり「驚きと不安を隠せなかった」そうですが、式典終了後は、普段話す機会の少ない人たちからも「お疲れさま」と声をかけられ、自らの活躍を実感。「今回の経験を生かし、たくさんの人にもっと聞きやすいアナウンスができるようにしたい」と語っていました。

湖陵100周年のシンボルマークをデザインした菅原あゆみさん(3年)は、「描くのが好き」なことから応募しました。学校の歴史を学ぶ中で「付近に熊笹が茂っていた」ことを知りデザインに取り入れました。採用を知らされたのは、三者面談の最中で、「びっくりしたけど、とてもうれしかった」と明るく話していました。

アトラクションは、生徒たちの活躍が光りました。器楽部は「さくら」などの演奏しました。3年生はこれが最後の活動。

部員の前田美紅さん(3年)は「一瞬一瞬を大切に演奏しました。部員全員での演奏では、今まで一番良かった」と満足そうでした。合唱部は明日へ続く道などを披露。部長の古川ひかりさん(3年)は「100周年にふさわしい歌声を届けることができました」とその出来映えを「100点」と評価しました。VOKは当日の進行とともに、学校の歴史などを紹介するビデオも作成しました。最も力を入れたのは「わかりやすく歴史を伝えること」。また、生徒全員に出演してもらったことで、今の湖陵を見てほしかったようです。

同窓生の心がちりちりとつかんだ応援団。1・2年各学級の代表と空手部などの有志、合わせて34人がステージ上で熱いパフォーマンスを繰り広げました。同タイムスでは、応援団長を務めた三上将君(2年)と指導した白山悟教諭、応援団OBの中納淳裕教諭(湖陵

42期・厚岸町立真龍中学校)にインタビューをしました。応援団が復活したのは、白山教諭が高校時代、応援団だったからでした。最初、昔ながらの応援団を再現する予定でしたが、中納教諭から「伝統も守りつつ100年目のこのメンバーで新しい応援団でもいいのでは」とアドバイスを受け、白山教諭にいろいろなイメージがわきました。三上君も中学校時代は応援団。「自分の振り付けを覚えるのがたいへん」と相当プレッシャーに感じていました。しかも、披露の直前で練習のしすぎから声が出なくなるというアクシデントに見舞われましたが、気力で乗り切りました。

応援団復活を望む声もあるようですが、現在は所属生徒がいなくても、希望者がいれば復活する可能性も大きいとのことでした。

星 匠(湖陵30期)



この文を書いている現在、センター試験まであと一週間となり、生徒の緊張感も最高潮に達しています。

このような時期には、生徒によく「悔いが残らないように頑張りなさい」と声をかけてしまいますが、この言い方で良かったのだろうかといつも自問します。確かに、

頑張ることは大切ですが、「悔いが残らない」ために頑張るののだろうか、また「悔いが残る」ということはそんなにいけないことなのだろうか、と。

そう考えるのは、私には高校時代のある思い出があるからです。湖陵生の私は器楽部に所属していました。3年生で指揮者になりました。私は全道大会金賞を目指して頑張っていました。結果は銅賞。私はその時、ものすごく「悔いが残った」のでした。札幌から釧路に帰ってまず、進路を教員養成系に変更することを担任の先生に相談しました。今度は教員になって全道大会の舞台上に立ちたい、と思いました。悔いが残り、こだわりを捨てきれなかったのです。

こうして教員になった私は、吹奏楽や楽器にこだわり続け、転勤で訪れたいろいろな地域で市民バンドを続け吹奏楽部顧問も続けました。いろいろな土地にたくさん仲間ができて、函館の市民バンド



(左から) 須貝喜治、佐藤文昭、増子正樹、田巻恒利、澁谷倫之、川端紀一、西村貞広、星匠

では、中学校のとき転校で別れた仲間と30年ぶりに再会しました。このように、充実した生活を送ってこれたのも、あの時「悔いが残った」おかげです。そして、なぜあるとき「悔いが残った」のだろうと考えると、一生懸命頑張ったからかな、とも思えます。

今後、私は、生徒に「悔いが残るほど頑張ってみなさい」と言うてみようと思います。

澁谷倫之
(湖陵26期・湖陵高校教諭)

釧路湖陵高校
〒085-0814
釧路市緑ヶ岡3丁目1番
TEL(0154)43-3131
ホームページ
<http://kushiro-koryuohp.inosek.co.jp/>

くまざさ編集委員会

- 同窓会会長 栗林延次(湖陵17期)
- 同窓会幹事長 島本幸一(湖陵19期)
- 同窓会会計長 佐藤文昭(湖陵22期)
- 編集委員長 星 匠(湖陵30期)
- 編集委員 川端紀一(湖陵11期)
- 編集委員 増子正樹(湖陵20期)
- 編集委員 澁谷倫之(湖陵26期)
- 編集委員 西村貞広(湖陵30期)
- 編集委員 須貝喜治(湖陵49期)
- 編集事務局 田巻恒利(湖陵18期)

くまざさ編集委員会

〒085-0014
釧路市末広町2丁目4番地
栄屋旅館内
TEL0154 (23) 0241
手動切替FAX
0154 (23) 0242